

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2276600372		
法人名	有限会社ホスピタルサービス		
事業所名	グループホーム福田はまぼうの家 1号館		
所在地	静岡県磐田市福田中島726番地		
自己評価作成日	平成29年8月3日	評価結果市町村受理日	平成29年11月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/zz/index.php?action_kounyo_u_detail_2016_022_kani=true&lievosvoCd=2276600372-

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成29年8月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム福田はまぼうの家は家庭的な雰囲気の中で「利用者の立場に立ち、安全で安心な環境の中での介護、看護が受けられる」を理念に掲げ、介護が必要な地域のご家族が住みやすい所で生き生きとした毎日を過ごして頂くために、温かい家庭的な雰囲気あふれる対応を心掛けています。「明るく、楽しく、清潔」を常に心がけ、日々努力しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「大きな通りに面していても建物そのものの存在感が薄く、目立つものがないから」と夏は駐車場にテントを張り、かき氷やビールの暖簾をアレンジして、利用者が気分よく外気浴ができるスペースを作ることができており、思いついたことをそのままにしない「実践力」がある事業所です。現在の管理者は定年にさらに更新を重ねた結果、1年半ほど前一度事業所を離れたましたが、他に適任の人材がなかったこともあって3ヶ月前に再就任しています。利用者は離れたいた時間を埋めてくれるように管理者を迎え入れていて、朗らかで元気の良い利用者が管理者と手をつなぎ歩いていく姿が印象的でした。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの理念を毎日見えるところに掲げ、地域密着型サービスを踏まえた理念の実現を目指して日々努力している	「4S(整理・整頓・清潔・清掃)を推進することはバイタルや排泄、食事の完食等健康管理に通ずる」との考えを以て、徹底させています。また実践には口うるさく言うよりも、リーダーがやってみせることが一番として、先んじておこなうことを管理者は旨としています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	日常的な付き合いはできている。毎年近隣の中学より福祉体験が12~15名あり、また、小学校の新任者研修の受け入れを行っている。秋の祭りには施設の広場を提供し、子供たちと一緒にお祭りを盛り上げるのに貢献している。	中学生の福祉体験や新任教師の研修場として受入れをおこない外部者の出入りはありますが、日常的なボランティア訪問は現在はありません。地域の祭りには駐車場を貸し出して伝統文化の披露もあり、福田港のイベントや防災訓練の案内も随時入ってきます。	利用者の望む暮らしにつながる、ボランティアの受入も盛んになれば、なお良いと思います。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて地域包括支援センターや次々回の役員を通じて認知症の人への理解活動やその時点での新聞やテレビ、雑誌を利用して紹介している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に1回開催するよう、計画、実施している。ホームの入居状況や防災、自然災害時の避難方法が話題になることが多い。最近が高齢化率の高い福田地区の話題も多い。	家族参加は毎回ではないものの、行政、自治会長とその補佐が参加しています。入居率の件で相談に对应してもらえ、提案があれば早速実行に移しています。そのことが今回は利用者の愉快的な外気浴につながり、花々のプランターも増え、活気につながっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的な会議に参加し、市の情報ももらっている。困りごとはよく相談している。月初めには施設から市へ入居状況を報告し、市内の施設の空き状況の情報を提供してもらっている。	月初に窓口へ入居状況を報告に出向くほか、磐田市の南部、中部、アイブラザ、福田・豊田町の地域包括支援センター、衛生病院へと足を延ばし、現状の把握や情報共有、営業に励んでいます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	比較的精神面で安定している方が多いが、帰宅願望があるので出口は安全の為、施錠している。外出する時は常に職員が付添い、外出している。	帰宅願望の症状の人もいて、玄関前の交通量も多いことから、家族に了解をもらって日中も施錠をしています。エアコンの緑の小さな光が気になってベッドの上に立ち手を伸ばしてしまうため、転倒防止のためマットのみで生活している例もあり、状態に合わせケースバイケースです。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全員が虐待防止について研修する機会を持ち、虐待を見逃すことのないように注意を払っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域包括支援センターや社会福祉協議会と連携して支援活動をしてきた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際に重要事項説明書及び契約書を交付し、内容を説明の上、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書を掲示し、明確化している。また、苦情箱を設置し、問題があればその都度、家族の意見や要望を聞き、話し合う環境を整えている。	面会では本人の状態報告、家族にお願いしたいことを伝え、家族からは御礼の言葉も直に届き、家族アンケートにも家族本人への積極的傾聴があり、「メンタル面で助けられている」との記述もあります。最近では室内の暗さを指摘され、灯りを点けるよう改善しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回職員会議を開催し、職員の意見や疑問に答え、情報の共有化を図っている。	「時間の無駄をなくそう」との職員の進言から業務チェックリストを一新しています。必ずおこなうことは予め刷り込み、職員はチェックを入れるだけに替え、現在試行中です。同様に排泄チェック表も色ペンで見分けが上手くゆくようになっていきます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則を守り、明るく笑い声の絶えない協調性のある職場作りに努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コンプライアンスセルフチェックシートを活用し、常に朝礼で呼びかけ、意識改革を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流を持ってサービスの質の向上を図る取り組みをしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面接記録、フェースシート、家族との面接記録を参考にし、利用者の声掛け、話を傾聴し、利用者の信頼関係を得るように努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者本人と家族の接し方と施設職員の接し方の違いを説明し、家族での介護の難しさを理解してもらいながら職員がどのように対応するかを説明する。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面接記録、フェースシート、家族との面接記録や主治医からのアドバイスを元に、利用者の観察を行い、声掛け、話の傾聴を繰り返しながら必要とする支援を見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の話の中に入り込み、利用者同士がより良い関係を築けるように職員が関わりを持っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が現在何を心配しているのかを聞き出し、それに対し職員の考えを伝え、問題の共有化を図り、ともに本人を支える様にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	兄弟や友人が来設した際はその人の精神状態や入居時期を考慮して面会の時期をアドバイスしている。	今でも以前からの美容院に通う人もいれば、不穏となることも考慮して状態把握のうえ面会時期を家族に提案したこともあり、続けることだけでなく経過観察や中断も快適な暮らしのためには大切としています。カラオケ好きな人には懐メロをBGMで流したり、ココアを常飲する人もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が利用者同士の中に入り、利用者同士が自然にコミュニケーションが取れる様にサポートしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用料の未払いの返済の為、利用料の安い施設を紹介し、返済に充てる等の相談や支援を行った。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントを実施して利用者本位のサービスを提供している。	3号館には意思疎通が全くできない人が4名いるため、「職員側からの気づきを」と注視しています。声掛けを契機に想いや心身状態を確認できて職員自身が大いに救われたケースもあったため、アプローチ量、方法にも気遣っています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントを実施し、モニタリングを定期的に行う事や傾聴を繰り返し、これまでの暮らしを把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントを実施し、モニタリングを定期的に行う事や傾聴を繰り返し、これまでの暮らしを総合的に把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議を開き、一人ひとりの介護計画を書面にて作成している。	普段の様子は介護経過記録に細かく書き入れ、3ヶ月ごとのモニタリングではその記載を中心に話し合っています。介護計画書の原案は各ユニットの計画作成担当者がおこない、介護支援専門員との協議でさらに密にしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員は利用者一人ひとりの1日の特徴的な出来事や行動を介護経過に詳細に記録し、ファイルしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出、受診の付き添い、入院中の対応等、随時その時に必要な対応を行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	学校、消防、地域包括、福祉課、自治会等と意見交換し、協力体制にある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関や往診可能な医療機関と密接な関係にあり、支援を受けている。	通院介助は家族にお願いしていますが、難しいとなれば事業所でも手伝っています。訪問診療は1年ほど前から始めており、1ユニット4名までと制限がありますが、何かあれば往診くださいます。法人勤務の看護師の来所が週1度あり、医療面のことを確認でき職員も安心です。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	H25.6より看護師を配置し、週1回入居者の健康状態を伝え、アドバイスを頂いたり、受診のタイミングの指導をお願いしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	退院時、入居が可能な状態か、病院や家族の情報を集約し、担当医師や看護師とも打ち合わせ、確認してから今後の受け入れについての話し合いをするように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	グループ施設に介護老人保健施設がある為、状態により紹介したり、他の医療機関や施設を希望された場合は、希望にあった施設や医療機関へ問い合わせを行っている。	急変には救急搬送となり、病院で亡くなる人が大半で、事業所で看取りをおこなった経験はありません。同法人では看取りをおこなうとして他事業所では契約書にも記載していますが、本事業所では「現状の体制では無理」として書面の修正、書き換えもしていません。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	高齢者に発生しやすい事故や症状について研修を行い、初期対応の仕方について勉強している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時の通報、消火、避難、地震や水害の訓練を年2回以上実施している。特に停電が予想される時の対応は職員全員に徹底している。	居室に「避難未」のカードをかけ、「避難確認ができたなら取り外すよう」と取り決めがあります。年2回の防災訓練は、昼想定ではトイレや風呂の水を貯めて消火訓練をおこない、夜間想定は連絡網の確認を主として実施しています。	災害時の福祉避難場所として案内していくとのことなので、次の3点を期待します。 ①地域の防災訓練に参加して、連携を強める ②備蓄の2日分は徐々に増やしていく ③一度雷被災で必要となった発電機購入への検討

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「接遇について」の教育指導にて十分配慮している。また、担当者会議や毎日の朝礼などで指導している。	「声掛けや話し方は関係づくりに大切」としてはいますが、未だ理解しての実行ができていない職員もいるため、先輩職員が都度助言しています。また新人には「優しく、ゆっくり丁寧に」と朝礼で何度も繰り返して浸透させています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の言動を否定することが無いように入居者の訴えに耳を傾ける様にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常生活の中でできることと出来ない事を見極め、観察する様にしている。職員が入居者一人ひとりの安全を考えて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者が持参された衣類等は季節に合わせて対応している。また、理容については2ヶ月に1度を目安にボランティアの美容師をお願いしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の支度は職員が行うが、お茶やお手拭きのおしぼりは以前は出来る人に手伝ってもらっている。食器拭きは利用者の当番制にしているが、両方ともできる利用者が少なくなってきた。	朝食の味噌汁の具のみ買い足して、ほぼ業者からの食材を手料理しています。男性職員はレンジ通りですが、女性職員は目分量でその家庭の味わいがあり、飽きずに愉しめています。外食は利用者のADLを理由として余りできていませんが、誕生日会のケーキは用意しています。	食事中に職員間の雑談が多い様に受けとめています。あくまでも「利用者の家」、であることを意識できるよう何らかの対策を期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や与薬のチェックは介護記録に記録している。栄養バランス、食事の硬さや大きさについても一人ひとりの情愛に応じた対応をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きの見守り、声掛け、うがいの介助、入れ歯洗浄の支援をしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ介助が必要な方は時間を決めて誘導したり、利用者の動作で排尿を察知し、介助している。排尿チェックシートを活用して利用者全員の排泄パターンを把握している。	以前は◎×式で記入していましたが職員の「わかりにくい」との意見から色を変えて排便、排尿を区別できるよう向上させています。オムツ利用が4名、リハパン12名、布パン7名という構成ですが、その人の状態に合わせて誘導、見守りと対応方法を替えています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排尿チェックシートを利用して便秘気味の方は主治医等に相談し、便秘薬を処方していただいている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回入浴日を決めている。真夏の暑い日はシャワー浴にする時もある。汚れがある際はその都度入浴を行っている。	タイル貼りの浴室は16年経てもカビもなく清潔で、職員の努力が滲みます。2番目の人からは足し湯で週に3回入ってもらおう段どりしていますが、湯は張るものの夏場は本人理由でシャワー浴となってしまうことが増えています。入浴剤は使用してはしません。	湯温をはじめ環境に関しては考えてくださっていますが、お風呂も楽しみの一つできるよう、今一步の工夫を期待します。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夕食後、一人ひとりの様子を観察しながら入床する前に排尿の声掛けを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医の処方に従い、服薬を支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭き、洗濯物たたみ、洋服とタオルで役割分担している。買い物はその都度、季節の行事に合わせた貼り絵は全員参加で行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	外気浴、散歩、買い物、家族との外出、外泊などの支援を行っている。	四季の変化を味わってもらうため、心身状態など出かけることが可能な利用者には梅や桜の花見、秋には福田の祭り子どもたちの伝統芸能を堪能する日もあります。特段散歩、外出を定期で設けてはませんが、夏には駐車場に張ったテントの中で涼みながら外気浴をしています。	年に1、2度は車いすが必要な人も含めての外出企画が実現すると、なお良いと思います。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理が出来ないばかりなので、職員が小口現金出納帳にて管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の訴えがあれば対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の場は常に明るくし、利用者がつまづくことがないように常に配慮している。床も常に清潔を保つよう、心掛けている。	大半の居室に西日が差す為夏はエアコンを少し強めとし、それでも冷えないときはドア開放してリビングから冷気を入れて工夫を凝らしています。また空間づくりにも励み、静岡県の名所を化粧紙、刺繍で模し、その中に事業所を入れ込んだ壁画からは職員の温かい気持ちが伝わります。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各館ごとにテーブルの配置を変えたりしている。当に利用者が座る位置をその日の利用者の状態で変えることもある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が日頃使っている馴染みの物を持ち込んでいただき、居心地よく過ごせるように居室を使っている。	自身で身の回りのことができる人は「たぶん自宅もこんな感じ」といった物がありますが、足元が心配だったりモノへの諸所症状があれば「必要最低限の物だけ」となり殺風景です。さみしがり屋の人の居室にはオウム返しする「おしゃべり人形」があり、本人の安心につながっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立している方は自由に居室を使ってもらっているが、食べ物の持ち込みには最新の注意を払っている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2276600372		
法人名	有限会社ホスピタルサービス		
事業所名	グループホーム福田はまぼうの家 2号館		
所在地	静岡県磐田市福田中島726番地		
自己評価作成日	平成29年8月3日	評価結果市町村受理日	平成29年11月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.mhiw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&jiayosoCd=2276600372-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成29年8月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム福田はまぼうの家は家庭的な雰囲気の中で「利用者の立場に立ち、安全で安心な環境の中での介護、看護が受けられる」を理念に掲げ、介護が必要な地域のご家族が住みやすい所で生き生きとした毎日を過ごして頂くために、温かい家庭的な雰囲気あふれる対応を心掛けています。「明るく、楽しく、清潔」を常に心がけ、日々努力しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「大きな通りに面していても建物そのものの存在感が薄く、目立つものがないから」と夏は駐車場にテントを張り、かき氷やビールの暖簾をアレンジして、利用者が気分よく外気浴ができるスペースを作ることができており、思いついたことをそのままにしない「実践力」がある事業所です。現在の管理者は定年にさらに更新を重ねた結果、1年半ほど前一度事業所を離れたましたが、他に適任の人材がなかったこともあって3ヶ月前に再就任しています。利用者は離れたいた時間を埋めてくれるように管理者を迎え入れていて、朗らかで元気の良い利用者が管理者と手をつなぎ歩いていく姿が印象的でした。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの理念を毎日見えるところに掲げ、地域密着型サービスを踏まえた理念の実現を目指して日々努力している		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な付き合いはできている。毎年近隣の中学より福祉体験が12~15名あり、また、小学校の新任者研修の受け入れを行っている。 秋の祭りには施設の広場を提供し、子供たちと一緒にお祭りを盛り上げるのに貢献している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて地域包括支援センターや次々回の役員を通じて認知症の人への理解活動やその時点での新聞やテレビ、雑誌を利用して紹介している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に1回開催するよう、計画、実施している。ホームの入居状況や防災、自然災害時の避難方法が話題になることが多い。最近では高齢化率の高い福田地区の話題も多い。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的な会議に参加し、市の情報ももらっている。 困りごととはよく相談している。 月初めには施設から市へ入居状況を報告し、市内の施設の空き状況の情報を提供してもらっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	比較的精神面で安定している方が多いが、帰宅願望があるので出口は安全の為、施錠している。外出する時は常に職員が付添い、外出している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全員が虐待防止について研修する機会を持ち、虐待を見逃すことのないように注意を払っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域包括支援センターや社会福祉協議会と連携して支援活動をしてきた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際に重要事項説明書及び契約書を交付し、内容を説明の上、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書を掲示し、明確化している。また、苦情箱を設置し、問題があればその都度、家族の意見や要望を聞き、話し合う環境を整えている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回職員会議を開催し、職員の意見や疑問に答え、情報の共有化を図っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則を守り、明るく笑い声の絶えない協調性のある職場作りに努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コンプライアンスセルフチェックシートを活用し、常に朝礼で呼びかけ、意識改革を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流を持ってサービスの質の向上を図る取り組みをしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面接記録、フェースシート、家族との面接記録を参考にし、利用者の声掛け、話を傾聴し、利用者の信頼関係を得るように努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者本人と家族の接し方と施設職員の接し方の違いを説明し、家族での介護の難しさを理解してもらいながら職員がどのように対応するかを説明する。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面接記録、フェースシート、家族との面接記録や主治医からのアドバイスを元に、利用者の観察を行い、声掛け、話の傾聴を繰り返しながら必要とする支援を見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の話の中に入り込み、利用者同士がより良い関係を築けるように職員が関わりを持っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が現在何を心配しているのかを聞き出し、それに対し職員の考えを伝え、問題の共有化を図り、ともに本人を支える様にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	兄弟や友人が来設した際はその人の精神状態や入居時期を考慮して面会の時期をアドバイスしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が利用者同士の中に入り、利用者同士が自然にコミュニケーションが取れる様にサポートしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用料の未払いの返済の為、利用料の安い施設を紹介し、返済に充てる等の相談や支援を行った。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントを実施して利用者本位のサービスを提供している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントを実施し、モニタリングを定期的に行う事や傾聴を繰り返し、これまでの暮らしを把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントを実施し、モニタリングを定期的に行う事や傾聴を繰り返し、これまでの暮らしを総合的に把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議を開き、一人ひとりの介護計画を書面にて作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員は利用者一人ひとりの1日の特徴的な出来事や行動を介護経過に詳細に記録し、ファイルしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出、受診の付き添い、入院中の対応等、随時その時に必要な対応を行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	学校、消防、地域包括、福祉課、自治会等と意見交換し、協力体制にある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関や往診可能な医療機関と密接な関係にあり、支援を受けている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	H25.6より看護師を配置し、週1回入居者の健康状態を伝え、アドバイスを頂いたり、受診のタイミングの指導をお願いしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	退院時、入居が可能な状態か、病院や家族の情報を集約し、担当医師や看護師とも打ち合わせ、確認してから今後の受け入れについての話し合いをするように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	グループ施設に介護老人保健施設がある為、状態により紹介したり、他の医療機関や施設を希望された場合は、希望にあった施設や医療機関へ問い合わせを行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	高齢者に発生しやすい事故や症状について研修を行い、初期対応の仕方について勉強している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時の通報、消火、避難、地震や水害の訓練を年2回以上実施している。特に停電が予想される時の対応は職員全員に徹底している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「接遇について」の教育指導にて十分配慮している。また、担当者会議や毎日の朝礼などで指導している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の言動を否定することが無いように入居者の訴えに耳を傾ける様にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常生活の中でできることと出来ない事を見極め、観察する様にしている。職員が入居者一人ひとりの安全を考えて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者が持参された衣類等は季節に合わせて対応している。また、理容については2ヶ月に1度を目安にボランティアの美容師をお願いしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の支度は職員が行うが、お茶やお手拭きのおしぼりは以前は出来る人に手伝ってもらっている。食器拭きは利用者の当番制にしているが、両方ともできる利用者が少なくなってきた。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や与薬のチェックは介護記録に記録している。栄養バランス、食事の硬さや大きさについても一人ひとりの情愛に応じた対応をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きの見守り、声掛け、うがいの介助、入れ歯洗浄の支援をしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ介助が必要な方は時間を決めて誘導したり、利用者の動作で排尿を察知し、介助している。排尿チェックシートを活用して利用者全員の排泄パターンを把握している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排尿チェックシートを利用して便秘気味の方は主治医等に相談し、便秘薬を処方していただいている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回入浴日を決めている。真夏の暑い日はシャワー浴にする時もある。汚れがある際はその都度入浴を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夕食後、一人ひとりの様子を観察しながら入床する前に排尿の声掛けを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医の処方に従い、服薬を支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭き、洗濯物たたみ、洋服とタオルで役割分担している。買い物はその都度、季節の行事に合わせた貼り絵は全員参加で行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外気浴、散歩、買い物、家族との外出、外泊などの支援を行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理が出来ない方ばかりなので、職員が小口現金出納帳にて管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の訴えがあれば対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の場は常に明るくし、利用者がつまづくことがないように常に配慮している。床も常に清潔を保つよう、心掛けている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各館ごとにテーブルの配置を変えたりしている。当に利用者が座る位置をその日の利用者の状態で変えることもある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が日頃使っている馴染みの物を持ち込んでいただき、居心地よく過ごせるように居室を使っていたりしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立している方は自由に居室を使ってもらっているが、食べ物の持ち込みには最新の注意を払っている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2276600372		
法人名	有限会社ホスピタルサービス		
事業所名	グループホーム福田はまぼうの家 3号館		
所在地	静岡県磐田市福田中島726番地		
自己評価作成日	平成29年8月3日	評価結果市町村受理日	平成29年11月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.mhiw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&jiyosyoCd=2276600372-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成29年8月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム福田はまぼうの家は家庭的な雰囲気の中で「利用者の立場に立ち、安全で安心な環境の中での介護、看護が受けられる」を理念に掲げ、介護が必要な地域のご家族が住みやすい所で生き生きとした毎日を過ごして頂くために、温かい家庭的な雰囲気あふれる対応を心掛けています。「明るく、楽しく、清潔」を常に心がけ、日々努力しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「大きな通りに面していても建物そのものの存在感が薄く、目立つものがないから」と夏は駐車場にテントを張り、かき氷やビールの暖簾をアレンジして、利用者が気分よく外気浴ができるスペースを作ることができており、思いついたことをそのままにしない「実践力、がある事業所」です。現在の管理者は定年にさらに更新を重ねた結果、1年半ほど前一度事業所を離れましたが、他に適任の人材がなかったこともあって3ヶ月前に再就任しています。利用者は離れた時間を埋めてくれるように管理者を迎え入れていて、朗らかで元気の良い利用者が管理者と手をつなぎ歩いていく姿が印象的でした。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの理念を毎日見えるところに掲げ、地域密着型サービスを踏まえた理念の実現を目指して日々努力している		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	日常的な付き合いはできている。毎年近隣の中学より福祉体験が12~15名あり、また、小学校の新任者研修の受け入れを行っている。 秋の祭りには施設の広場を提供し、子供たちと一緒にお祭りを盛り上げるのに貢献している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて地域包括支援センターや次々回の役員を通じて認知症の人への理解活動やその時点での新聞やテレビ、雑誌を利用して紹介している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に1回開催するよう、計画、実施している。ホームの入居状況や防災、自然災害時の避難方法が話題になることが多い。最近では高齢化率の高い福田地区の話題も多い。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的な会議に参加し、市の情報ももらっている。 困りごととはよく相談している。 月初めには施設から市へ入居状況を報告し、市内の施設の空き状況の情報を提供してもらっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	比較的精神面で安定している方が多いが、帰宅願望があるので出口は安全の為、施錠している。外出する時は常に職員が付添い、外出している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全員が虐待防止について研修する機会を持ち、虐待を見逃すことのないように注意を払っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域包括支援センターや社会福祉協議会と連携して支援活動をしてきた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際に重要事項説明書及び契約書を交付し、内容を説明の上、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書を掲示し、明確化している。また、苦情箱を設置し、問題があればその都度、家族の意見や要望を聞き、話し合う環境を整えている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回職員会議を開催し、職員の意見や疑問に答え、情報の共有化を図っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則を守り、明るく笑い声の絶えない協調性のある職場作りに努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コンプライアンスセルフチェックシートを活用し、常に朝礼で呼びかけ、意識改革を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流を持ってサービスの質の向上を図る取り組みをしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面接記録、フェースシート、家族との面接記録を参考にし、利用者の声掛け、話を傾聴し、利用者の信頼関係を得るように努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者本人と家族の接し方と施設職員の接し方の違いを説明し、家族での介護の難しさを理解してもらいながら職員がどのように対応するかを説明する。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面接記録、フェースシート、家族との面接記録や主治医からのアドバイスを元に、利用者の観察を行い、声掛け、話の傾聴を繰り返しながら必要とする支援を見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の話の中に入り込み、利用者同士がより良い関係を築けるように職員が関わりを持っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が現在何を心配しているのかを聞き出し、それに対し職員の考えを伝え、問題の共有化を図り、ともに本人を支える様にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	兄弟や友人が来設した際はその人の精神状態や入居時期を考慮して面会の時期をアドバイスしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が利用者同士の中に入り、利用者同士が自然にコミュニケーションが取れる様にサポートしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用料の未払いの返済の為、利用料の安い施設を紹介し、返済に充てる等の相談や支援を行った。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントを実施して利用者本位のサービスを提供している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントを実施し、モニタリングを定期的に行う事や傾聴を繰り返し、これまでの暮らしを把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントを実施し、モニタリングを定期的に行う事や傾聴を繰り返し、これまでの暮らしを総合的に把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議を開き、一人ひとりの介護計画を書面にて作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員は利用者一人ひとりの1日の特徴的な出来事や行動を介護経過に詳細に記録し、ファイルしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出、受診の付き添い、入院中の対応等、随時その時に必要な対応を行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	学校、消防、地域包括、福祉課、自治会等と意見交換し、協力体制にある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関や往診可能な医療機関と密接な関係にあり、支援を受けている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	H25.6より看護師を配置し、週1回入居者の健康状態を伝え、アドバイスを頂いたり、受診のタイミングの指導をお願いしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	退院時、入居が可能な状態か、病院や家族の情報を集約し、担当医師や看護師とも打ち合わせ、確認してから今後の受け入れについての話し合いをするように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	グループ施設に介護老人保健施設がある為、状態により紹介したり、他の医療機関や施設を希望された場合は、希望にあった施設や医療機関へ問い合わせを行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	高齢者に発生しやすい事故や症状について研修を行い、初期対応の仕方について勉強している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時の通報、消火、避難、地震や水害の訓練を年2回以上実施している。特に停電が予想される時の対応は職員全員に徹底している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「接遇について」の教育指導にて十分配慮している。また、担当者会議や毎日の朝礼などで指導している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の言動を否定することが無いように入居者の訴えに耳を傾ける様にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常生活の中でできることと出来ない事を見極め、観察する様にしている。職員が入居者一人ひとりの安全を考えて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者が持参された衣類等は季節に合わせて対応している。また、理容については2ヶ月に1度を目安にボランティアの美容師をお願いしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の支度は職員が行うが、お茶やお手拭きのおしぼりは以前は出来る人に手伝ってもらっている。食器拭きは利用者の当番制にしているが、両方ともできる利用者が少なくなってきた。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や与薬のチェックは介護記録に記録している。栄養バランス、食事の硬さや大きさについても一人ひとりの情愛に応じた対応をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きの見守り、声掛け、うがいの介助、入れ歯洗浄の支援をしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ介助が必要な方は時間を決めて誘導したり、利用者の動作で排尿を察知し、介助している。排尿チェックシートを活用して利用者全員の排泄パターンを把握している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排尿チェックシートを利用して便秘気味の方は主治医等に相談し、便秘薬を処方していただいている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回入浴日を決めている。真夏の暑い日はシャワー浴にする時もある。汚れがある際はその都度入浴を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夕食後、一人ひとりの様子を観察しながら入床する前に排尿の声掛けを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医の処方に従い、服薬を支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭き、洗濯物たたみ、洋服とタオルで役割分担している。買い物はその都度、季節の行事に合わせた貼り絵は全員参加で行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外気浴、散歩、買い物、家族との外出、外泊などの支援を行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理が出来ない方ばかりなので、職員が小口現金出納帳にて管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の訴えがあれば対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の場は常に明るくし、利用者がつまづくことがないように常に配慮している。床も常に清潔を保つよう、心掛けている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各館ごとにテーブルの配置を変えたりしている。当に利用者が座る位置をその日の利用者の状態で変えることもある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が日頃使っている馴染みの物を持ち込んでいただき、居心地よく過ごせるように居室を使っていたりしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立している方は自由に居室を使ってもらっているが、食べ物の持ち込みには最新の注意を払っている。		